

あけましておめでとうございます。令和3年は<sup>うし</sup>丑年です。牛は古くから人の生活を支え続けてきた身近な存在でした。本特集展示にならぶ多彩な〈描写された牛の姿形〉には、そんな牛に対する人びとのさまざまな<sup>おも</sup>想いが反映されています。

牛に聖性をみる古代インドの信仰は、東アジアにまで広がり、ときには神の乗り物や、仏教における悟りの象徴ともみなされました。このように〈牛にまつわる信仰史〉は多様ですが、その背景には、日常における〈牛と共同した暮らし〉がありました。力強く従順な牛は、重要な労働力として輸送や農耕に活躍していたのです。さらに平安時代には、貴族の乗り物、牛車<sup>ぎゅうしゃ</sup>が登場します。華やかな〈牛車と王朝の様式美〉は、現代にいたるまで長く憧憬の対象となりました。

なお本展のタイトルは、「牛に引かれて善光寺参り」という諺をもとにしたもの。「身近に起こった出来事に導かれて、思いがけない縁が結ばれること」のたとえです。新型コロナ感染拡大防止のため、さまざまな対策をとらなければならない今だからこそ、展示作品との思いがけない出会いを通して、改めてトーハク(東京国立博物館)と縁を結んでいただきたい。そんな想いを込めました。本展が、今後の新たな日常を支えていく、ささやかなきかけとなれば幸いです。

The year 2021 is the year of the ox according to the Chinese zodiac, a system adopted in Japan along with the lunar calendar. The history of the ox is closely intertwined with that of humanity, working side-by-side to cultivate fields for thousands of years. Though perhaps best known as plough animals, oxen also held religious significance as the steeds of deities—a belief that started in India and spread throughout Asia.

In Japan, nobility rode in splendid ox-drawn carriages during the Heian period (794–1192), causing later generations to look on them fondly as a symbol of a golden age. This exhibition presents works from several cultures across Asia, reflecting the diverse representations of the ox throughout history.



# 博物館に 初もうで

New Year's Celebration  
at the Tokyo National Museum:  
Year of the Ox

令和3年(2021)  
1月2日(土)～1月31日(日)  
東京国立博物館 本館特別1・2室  
January 2-31, 2021  
Rooms T1 and T2, Japanese Gallery (Honkan)  
Tokyo National Museum



## ウシにひかれてトーハクまいり



# 第1章 牛にまつわる信仰史

宗教の歴史をひもとくと、牛は、聖なる動物、神仏の強大な力や仏教の悟りの象徴と考えられてきたことがわかります。牛の頭をした姿、あるいは牛に乗った姿で、神仏が表わされることもありました。さらに、日本の仏教説話にもとづく諺「牛に引かれて善光寺参り」では、人を仏のもとへ導く存在として牛が登場します。本章では、牛と結びついた神仏の彫刻や絵画、善光寺に関する作品などを通じて、古代インドから中国そして日本へと続く、牛にまつわる信仰の歴史をたどります。



牛(本来の自己)をようやく飼いならし、悟りへと近づきました。

十牛図(模本) Ten Ox-Herding Scenes (Copy)  
陶山雅純模、原本:狩野探幽筆  
江戸時代・嘉永3年(1850)、原本:江戸時代・17世紀



牛による田起こしの場面は、耕作図の定番です。

四季耕作図屏風(模本)部分  
Farming Scenes of the Four Seasons (Copy)  
原本:伝狩野元信筆  
江戸時代・19世紀、原本:室町時代・16世紀



牛に導かれた先で、思いがけず仏と縁を結びました。

阿弥陀如来および両脇侍立像(善光寺式)  
The Buddha Amida with Two Attendants, in the Zenkō-ji Temple Style  
鎌倉時代・建長6年(1254)

力強い牛は、神仏の力のシンボルとされました。

チューゲル立像  
Dharma King (Chos Rgyal)  
清時代・18~19世紀



# 第2章 牛と共同した暮らし

古来、牛は、人の生活に寄り添い、さまざまな活動を手助けしてくれる重要な存在でした。遠方への乗り物となっただけでなく、耕作の際の田起こしや、重い荷物の運搬など、持ち前の力強さを発揮して人の暮らしを支え続けてきました。怒ると鋭い角で突進することから、ときには合戦で利用されることもありました。本章では、牛との耕作風景を描いた屏風や、牛による荷運びを描いた浮世絵など、人と牛との共同生活を表わした作品を紹介します。

# 第3章 牛車と王朝の様式美

重いものを運ぶ労働力であった牛が、一躍、華やかな脚光を浴び、人びとの品評の対象となったのは平安時代からです。その背景には、牛車の流行がありました。はじめは高貴な女性の乗り物であった牛車は、しだいに貴族層の主要な交通手段に発達します。牛車は、その装いから所有者の趣味や権勢が判断されるステータスシンボルでもありました。

中世以降、多額の維持費がかかる牛車の文化は廃れていきます。それだけに、牛車は失われた王朝文化の象徴として、憧れとともに記憶の中へ留まり続けることとなります。



葵祭の彩り豊かな牛車が進みます。  
賀茂祭草紙(模本)部分  
The Kamo Festival (Copy)  
狩野養信模、江戸時代・文化9年(1812)、原本:南北朝~室町時代・14~15世紀



背中に背負う奇抜な意匠は伝統の片輪車から。  
陣羽織 淡黄羅紗地片輪車模様  
Vest Worn over Armor (Jinbaori) with a Carriage Wheel in Water  
江戸時代・18世紀



川にひたした牛車の車輪は、まさに王朝の様式美。  
片輪車蒔絵螺鈿手箱  
Cosmetic Box with Carriage Wheels in Water  
平安時代・12世紀

# 第4章 描写された牛の姿形

人に身近な存在である牛は、古くより美術作品に表わされてきました。大胆に墨の階調を活かした水墨画の牛や、写実的な似絵風のやまと絵の牛など、描かれた牛の技法や表現はさまざまです。また、牛にまつわる代表的な画題である「十牛図」や「許由巢父図」を典拠とした工芸の図様も多くみられます。本章では、絵画を中心に、染織・金工・漆器などを交え、多種多様な牛の造形をご覧ください。



「十牛図」の場面は堆朱の小箱にも登場します。  
牛童堆朱合子  
Lidded Incense Container with Herdboys  
明時代・15~16世紀



天下を譲ると言われ、汚れたことを聞いたと耳を洗った許由。そんな水は牛にも飲ませられないと立ち去る巢父。  
許由巢父図  
The Sages Xu You and Chaofu 「許墨」印  
室町時代・16世紀



「見返り美牛図」とでも呼びたい優美な後ろ姿。  
駿牛図断簡 Part of Illustrations of Fine Oxen  
鎌倉時代・13世紀



臥した姿は、撫でられるのを待っているようです。  
牛水滴  
Water Dropper in the Shape of an Ox  
渡辺近江大権正次作 江戸時代・17世紀

第1章 牛にまつわる信仰史

No.	名称	作者・地域／時代
1	ヴァジュラバイラヴァ 父母仏立像	中国 清時代・17~18世紀
2	チューゲル立像	中国 清時代・18~19世紀
3	焰魔天坐像 (十方天のうち)	中国 清時代・18~19世紀
4	銅大威徳明王懸仏	南北朝時代・貞和4年(1345)
5	焰魔天像	南北朝時代・14世紀
6	五大尊像	室町時代・15世紀
7	薬師三尊十二神将像	鎌倉時代・14世紀
8	仏涅槃図	室町時代・15世紀
9	仏画図集 (大威徳明王図像)	江戸時代・17世紀
10	十二神将図像(模本)	明治時代・19~20世紀
11	十二神将図像(模本)	明治時代・19~20世紀
12	辟邪絵(天刑星) (模本)	明治時代・19世紀、原本：平安時代・12世紀
13	松崎天神縁起(模本) 三ノ巻	前田氏実模 大正6年(1917)、原本：鎌倉時代・応長元年(1311)
14	十二類合戦絵巻 (模本) 下巻	狩野養長模 江戸時代・19世紀、原本：室町時代・15世紀
15	十牛図(模本)	陶山雅純模、原本：狩野探幽筆 江戸時代・嘉永3年(1850)、原本：江戸時代・17世紀
16	十牛図(模本)	狩野常信模、原本：伝李嵩筆 江戸時代・延宝3年(1675)、原本：中国南宋時代・12~13世紀
17	◎ 阿弥陀如来および 両脇侍立像(善光寺式)	鎌倉時代・建長6年(1254)
18	信州善光寺如来略縁起	江戸時代・19世紀
19	善光寺如来絵詞伝 一	釈元空著 江戸時代・安政5年(1858)
20	牛王宝印	江戸時代・19世紀刊

第2章 牛と共同した暮らし

21	春曉牧牛図(模本)	狩野養信模、原本：伝戴嵩筆 江戸時代・文政2年(1819)、原本：中国南宋時代・13世紀
22	四季耕作図屏風(模本)	原本：伝狩野元信筆 江戸時代・19世紀、原本：室町時代・16世紀
23	四季耕作図屏風	江戸時代・17世紀
24	荷負牛	堤等琳(三代目)筆 江戸時代・18~19世紀
25	高輪牛町	歌川広重筆 江戸時代・19世紀
26	かつしか五節句・大原女	二代目葛飾戴斗筆 江戸時代・19世紀
27	俱利伽羅谷合戦	勝川春亭筆 江戸時代・19世紀

表紙作品：No.53 袱紗 淡紅縹子地騎牛笛吹童子図

第3章 牛車と王朝の様式美

28	三彩牛車・馱者	中国 唐時代・7世紀
29	◎ 片輪車蒔絵螺鈿手箱	平安時代・12世紀
30	陣羽織 淡黄羅紗地片輪 車模様	江戸時代・18世紀
31	振袖 浅葱縮緬地松竹梅 鷹御所車模様	江戸時代・19世紀
32	御所車置物	長谷川晴定作 明治時代・19世紀
33	和宮御車図	江戸時代・文久2年(1862)頃
34	車輿図考 巻六	案翁撰、稲村行教等考証、渡辺広輝画 江戸時代・19世紀
35	伴大納言絵巻(模本) 下巻	冷泉爲恭模 江戸時代・19世紀、原本：平安時代・12世紀
36	平治物語絵巻(模本) 院中焼討ノ巻	狩野栄信・中山養福模 江戸時代・19世紀、原本：鎌倉時代・13世紀
37	賀茂祭草紙(模本)	狩野養信模 江戸時代・文化9年(1812)、原本：南北朝~室町時代・14~15世紀

第4章 描写された牛の姿形

38	牧童図(模本)	狩野養信模、原本：伝戴嵩筆 江戸時代・19世紀、原本：中国元~明時代・14世紀
39	飯牛図(模本)	竹沢養溪模、原本：石鋭筆 江戸時代・18世紀、原本：中国明時代・15世紀
40	牧童図	崇竺筆 室町時代・16世紀
41	許由巢父図	「酔墨」印 室町時代・16世紀
42	鳥獸戯画(模本) 乙巻	山崎董澄模 明治時代・19世紀、原本：平安時代・12世紀
43	◎ 駿牛図断簡	鎌倉時代・13世紀
44	牧牛図	渡辺華山筆 江戸時代・19世紀
45	牛図屏風	森徹山筆 江戸時代・19世紀
46	見立草刈山路	杉村治兵衛筆 江戸時代・17世紀
47	見立巢父	鈴木春信筆 江戸時代・18世紀
48	許由巢父鏡	中国 金時代・12~13世紀
49	牛童堆朱合子	中国 明時代・15~16世紀
50	五彩金襴手碗(牧童文)	中国、景德鎮窯 明時代・16世紀
51	牛鈕馬肉紅石印材	中国 清時代・17~19世紀
52	臥牛端溪石長方硯	中国 清時代・19~20世紀
53	袱紗 淡紅縹子地騎牛笛 吹童子図	江戸時代・18~19世紀
54	銅臥牛香炉	江戸時代・17世紀
55	臥牛図鐺	土屋安親作 江戸時代・18世紀
56	大黒水牛木彫根付	線刻銘「友忠」 江戸時代・18世紀
57	牛水滴	渡辺近江大掾正次作 江戸時代・17世紀
58	牧童水滴	江戸時代・17~18世紀
59	水牛水滴	江戸時代・17~18世紀
60	牛に老子水滴	江戸時代・18~19世紀



特集 博物館に初もうで ウシにひかれてトーハクまいり

2021年1月2日発行

執筆：高橋真作、福島修、増田政史、撮影：藤瀬雄輔ほか、翻訳：レベッカ・ハーモン、表紙デザイン：原案：荻堂正博(以上、東京国立博物館) / デザイン・制作・印刷：能登印刷株式会社 / 編集・発行：東京国立博物館 ©2021 東京国立博物館